

| 教育的価値   | 具 体 の 項 目  | 教育課程          |
|---------|--|---------------|
| 2【かかわる】 | ①【ボランティア】<br>他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、<br>他人の喜びを自分の喜びとして共感する。 | 特別活動<br>（委員会） |

### 【題 材】

## 甲子キッズフラワー作戦

### 【対 象】

ボランティア委員会・美化委員会に所属する5・6年生(38名)

### 【実践の概要】

花を植栽したプランターを校地内に飾ると共に、『地域の美化活動に努めること』『仮設住宅で暮らす方々との交流を図る』という2つのねらいのもと、児童会ボランティア委員会と美化委員会に所属する5・6年児童38名が、プランターに季節の花を植栽したものを仮設住宅敷地内に届ける活動を行った。



### 【実践の詳細】

6月、地域の花屋さんから指導を受けながら、心を込めて一人一人花苗をポットからプランターに植栽した。



7月、コメントを書いたプレートの花の脇に立て、仮設住宅に届けると共に、仮設住宅に住んでいる方々と交流を図りながらプランターを置く場所を決定し設置した。

9月、委員会の児童が再度仮設住宅を訪問し、花の植え替え作業を行った。

仮設住宅に住んでいる方々が見守る中、2回目は寒さに強い花を植えた。

枯れかかっていた花が、鮮やかな色の花に替わり、周辺が明るい雰囲気になり、住人の皆さんも喜んでいました。



【活動の様子】

地域の花屋さんから  
植栽の仕方を聞きました



一人1プランターを担当し  
心を込めて植えました



仮設住宅にお住まいの方々も出てきて  
一緒に植えていただきました



甲子小キッズフラワー作戦の  
シールを貼ってできあがり



＜児童の感想＞

- ・ ボランティア委員会で育てた花を届けました。2回とも、みんな喜んでくれたのでやりがいがありました。これからも、仮設住宅に住む方々を笑顔にできるように、花を届ける活動をしていきたいです。
- ・ 仮設住宅に住む皆さんに、少しでも元気になってもらいたいと思いプランターを届けました。花を届けたとき、仮設住宅に住む皆さんが笑顔になったのでよかったです。

＜まとめ＞

- ・ 『被災し仮設住宅に住んでいる方々を、少しでも元気にしたい。』という、子どもたちの思いを形にすることができた活動であった。

＜保護者・地域の感想＞

- ・ 『大切に育ててください』という子どもが書いた文字は癒される、という言葉に住人の方から頂いた。
- ・ 『夕方、涼しくなった頃に花を見ると癒されます。』『孫に頼まれたから枯らさないようにお世話しています』等の励みとなる言葉を頂いた。

| 教育的価値   | 具 体 の 項 目   | 教育課程      |
|---------|---|-----------|
| 1 【いきる】 | ②【自然との共存】<br>自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念をもち、自然と共に生きることについて考える。 | 総合的な学習の時間 |

**【題 材】**

五葉山登山

**【対 象】**

6年生(68名)

**【実践の概要】**

校歌の歌詞に登場する『五葉山』は、貴重なヒノキアスナロの原生林やシャクナゲの群落があり、ホンシュウジカやニホンザルなどの住む岩手県立自然公園の1つである。

そこで、『五葉山に登り甲子小学校を見よう！』を合い言葉に、上記の復興教育のねらいの他、『つらいことから逃げずに、最後までやり遂げる忍耐力を培うと共に、やり遂げた充実感を味わわせる』こともねらいに加え、釜石市山岳協会の方々支援を受けて、6年生が五葉山登山に挑んだ。



**【実践の詳細】**

- 1 期日  
平成25年9月18日(水)
- 2 日程  
 8:15 出発式(バス移動)  
 10:00 赤坂登山口 発  
 12:00 山小屋付近で昼食  
 12:30 山小屋発(山頂へ)  
 13:00 山頂発(下山)  
 15:00 赤坂登山口 着  
 16:10 学校着(解散)
- 3 参加者  
 6年児童 67名(けがで1名不参加)  
 引率教師 4名  
 ボランティア 3名(釜石市山岳協会)



## 【活動の様子】

# 五葉山からの景色最高でした！

9月18日台風一過でこれ以上ないといった秋晴れの中、6年生は五葉山登山を行いました。いっしょに登っていただいた山岳協会の方々も、「こんなにいいコンディションはめったにない。」と言うぐらいの天候になりました。登り始めは、「大変だ。」「なんで登山するの。」とかぶつぶつ言っていた子どもたちも、藪を抜けて、下界が見られる高さになると「海がきれい。」とか「うわー高い」などの歓声が聞かれるようになりました。お昼は山頂近くの9合目でとりましたが、同じ体験を共有した仲間と食べるお弁当は格別のようにでした。

昼食の後、林の中でかなり大きめのミヤマクワガタを捕まえた子どももいて、ボルテージは一気に高まりました。その後頂上で撮影をし、下山となったのですが、4時間近く歩き続けた思い出は、筋肉痛の足の痛みとともに子どもたちの心に深く刻まれたにちがいありません。



6 学年 学年通信より

## ＜児童の感想＞

- ・ みんなで声をかけ合いながら頂上をめざしました。その時、友情や絆が深まったと思います。空の景色は満点の青空で、とてもきれいでした。この景色は心のアルバムにしまっておきます。
- ・ 愛染山が見えました。小さいなあーと思いますした。岩手山が見えなくて残念でした。でも、栗駒山がうっすら見えました。栗駒山は時々しか見られないようなので見えてとてもラッキーでした。

## ＜まとめ＞

- ・ ねらいとした、『自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念をもち、自然と共に生きることについて考える。』『つらいことから逃げずに、最後までやり遂げる忍耐力を培うと共に、やり遂げた充実感を味わわせる』の2つが達成できたのではないか。
- ・ 自然の怖さだけでなく素晴らしさに気づくと共に、郷土に対する誇り・愛着の心も子どもたちの心の中に芽生えたのではないか。

## ＜保護者・地域の感想＞

- ・ 登った経験のある子どもが少ないのが残念です。身近な山なので、是非、登ってほしいと思っています。
- ・ 子どもたちにとって、素敵な体験になったと思う。今後も続けてほしい。